



フラワー
コーディネーター
(ブーゼ代表)

浦沢 美奈さん

■季節を感じる暮らし

椿つばき、すみれ、藤袴ふじはかま。子供の頃から我が家にはいつも一輪の花が活かいれていました。足の指先を冷たく感じた初秋の夕暮れ時や、鳥の鳴き声が近く聞こえた初春の朝には花がかわわわって、季節の移ろいを思い出した。「季節感のない女性をあきまへん」。御所に仕えていた曾祖母そそうに厳しく言われていた母から私が受け継いだのは、四季を愛あでる習慣です。

大人になって、私はパリのフレンチアレンジメントに感動し、学びに熱中しました。やがて京都で再現しても輝きが少ないことに悩みましたが、「季節」を加える手法を見出し創作の世界が広がりました。あこがれと習慣を組み合わせたブーゼの花は、昨年イタリアの雑誌から取材を受けました。「よく知っているスタイルなのに繊細な色使いにより初めて出会ったと感じるエレガンス」。季節を愛でる心はヨーロッパの方々にも喜んでいただける個性となって伝わったようです。

花を飾ると家族の会話が弾みます。季節の行事が子供たちの心に刻まれ、温かい絆が生まれます。家族のつながりと美意識。私は暮らしの習慣からとても大切なことを受け継いだのだと感じています。

(次回1月15日のリレーメッセージは、竹中木版 竹笹堂 六代目摺師の原田裕子さんです)